

企画展

藍

紅花のものがたり

きらめく二つの色彩の伝統と現在

のものがたり

Special Exhibition

Stories of Indigo
and Safflower

Tradition and Today in Two Brilliant Colors

2025.

7.5 → 8.3 前期

(sat) (sun)

8.6 → 8.31 後期

(wed) (sun)

【開館時間】 9:00 ~ 17:00 (入館は16:30まで)

【休館日】 7月23日(水)、8月27日(水)

★ 8月4、5日は展示替えのため常設展示のみ

【入館料】 一般 590円(470円)、

高大生 390円(310円)、小中生 240円(190円)

※()は20名以上の団体料金

主催 米沢市上杉博物館

協力 大倉集古館、原始布・古代織参考館、鈴木紅花研究所、株式会社新田、赤崩草木染研究所

連携 最上川源流よねざわ紅花プロジェクト推進協議会

企画協力 株式会社イデッフ

左:「紅縮緬絞り刺繍花模様小袖」 河北町紅花資料館蔵(前期) / 右:「紺木綿地魚河岸模様絞り浴衣」 今昔西村蔵(後期) / 右下:「白木綿地梅花模様浴衣」 個人蔵(前期)

米沢市上杉博物館



米沢市紅花プロジェクト

<https://www.benibanayonezawa.com>

<https://www.denkoku-no-mori.yonezawa.yamagata.jp> 〒992-0052 山形県米沢市丸の内 1-2-1 TEL.0238-26-8001 FAX.0238-26-2660

藍のものがたり

Special Exhibition
Stories of Indigo and Safflower
Tradition and Today
in Two Brilliant Colors

紅花のものがたり

きらめく二つの色彩の伝統と現在

古来から布や糸を染めるために様々な染料が使用されてきました。19世紀の頃に化学染料が誕生するまでは、動植物から抽出した天然の染料によって色を得るとともに、その植物の効能も活用してきました。日本の色彩文化において欠かせない藍色と紅色は、藍と紅花から生まれます。藍と紅花は染料の一つでありながら、それぞれの独自の文化を築いてきました。本展では、この二大染料の色彩と染色技法の歴史、そこから生まれた意匠や衣服を紹介し、その魅力を再発見します。

藍のものがたり

藍は古くから日本で親しまれ、様々な染色技法と結びつき、染料として用いられてきました。本展では、江戸から昭和にいたる浴衣や型紙に加えて、当時の風俗を描く浮世絵などを中心に紹介し、現代でもなお広く受容されている藍染めの魅力を、その技法や素材、デザイン性の要素から紐解き、注染などの技法で意匠を凝らした浴衣などをとおして紹介します。



白木綿地紗綾形雲取
楓桜散模様古裂
(江戸時代後期) 個人蔵
(通期)



菊模様型紙 (長板中形)
(昭和初期) 個人蔵 (通期)



1. 蓼藍 (たदैあい) タデ科の1年草。日本には6世紀頃中国から伝わり藍色の染料を採るために広く栽培された。江戸時代には、紅花・麻とともに〈三草〉の一つに数えられた。／2. 藍蓼 (あいがめ) 染料となった藍汁をためておくかめ。



からむし藍染小紺 (1776年頃)
原始布・古代織参考館蔵 (後期)



白麻地萬歳楽
刺繍鹿子橘模様小袖 (江戸時代)
原始布・古代織参考館蔵 (前期)

紅花のものがたり

古くから貴族のあこがれの色であった紅(くれない)は、紅花による染色です。自然の草木を染料として使う草木染めのなかでも、花を使用する珍しい染めです。山形県では、現在の最上川流域で室町時代末期に栽培が始まり、江戸時代には染料となる良質な『紅餅』に加工されて主に最上川を下って酒田から船で京へ運ばれました。「最上紅花」と呼ばれ、全国の生産量の約60%を占める勢いであったといわれます。明治時代に入り、海外からの輸入や、化学染料の普及により、京都を中心に行われていた紅花染の技法も風前の灯となり最上紅花の栽培も急速に減退しました。昭和20年代には米沢市内の中学校理科教師であった鈴木孝男氏が、植物としての紅花の魅力とその色素に魅せられて、栽培と染色に取り組み、その色素や染色の仕組みを明らかにしました。



量染地秋七草貝桶
屋根舟模様祝着
(江戸～明治時代)
原始布・古代織参考館蔵
(前期)



麻紅花染絞り丸散らし紋様下着
個人蔵 (前期)



木綿地流水鮎模様手描友禅留袖
(江戸～明治時代)
原始布・古代織参考館蔵 (前期)



1. 紅花 キク科の植物。原産はエジプトといわれる。紅色染料や食用油の原料。／2. 紅餅 (べにもち) 紅花の花びらを摘み取り、加工したもの。保存が効き、乾燥花より赤い色素が多く抽出できる。／3. 烏梅 (うばい) 落梅に炭粉をまぶし、すのこに並べてむしろをかけ、水をかけて燻煙したのち、乾燥させたもの。このクエン酸によって、鮮やかな紅色が生まれる。



《ギャラリートーク》 申込不要 ※企画展入館料が必要です。

7月5日(土) 14:00～ 担当学芸員のみどころ解説

《ゲストギャラリートーク》

7月13日(日) 14:00～

原始布・古代織参考館館長 山村幸夫氏

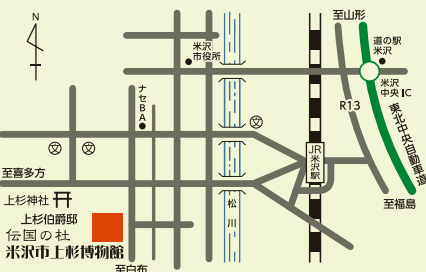
《アウトリーチ》

『赤崩草木染研究所見学』

7月26日(土) 10:00～12:00 / 参加費500円

対象: 高校生以上15名 / 申込開始 6月25日(水) 9:00～

※赤崩草木染研究所現地集合となります。



《募集制ワークショップ》 (いずれも参加費500円)

ナイトツアーようこそ夜の博物館へ『藍と紅花のひみつ』

7月11日(金) 19:00～20:30 / 申込受付 6月11日(水) 9:00～ / 対象: どなたでも(中学生以下は保護者同伴)

『紅花のふしぎ～ハンカチをそめよう～』

8月2日(土) 13:30～16:00 / 講師: 株式会社新田 新田克比古氏、新田翠氏

対象: 小学生以上15名 / 申込受付 7月2日(水) 9:00～

『藍の生葉でストールをそめよう』

8月23日(土) 13:30～16:00 / 対象: 小学生以上15名

申込受付 7月23日(水) 9:00～

【次回展覧会】

特別展「上杉謙信の祈りと信仰」

前期: 9月13日(土)～10月13日(月・祝)

後期: 10月18日(土)～11月16日(日)

募集中!

● 伝国の杜ファンクラブ … もっと楽しみたい方に! 博物館入館無料他、特典いろいろ。
● 伝国の杜サポーター … 人とつながる、自分をいかにするボランティア。

アクセス

■ JR米沢駅から2km (上杉神社隣接)
■ 市内循環バス「上杉神社前」下車
■ 東北中央自動車道米沢中央ICから約4km



最新情報は
こちら
↓アンケートに
ご協力ください



米沢市上杉博物館

https://www.denkoku-no-mori.yonezawa.yamagata.jp



〒992-0052 山形県米沢市丸の内1-2-1 TEL.0238-26-8001 FAX.0238-26-2660

米沢市上杉博物館

連携
情報

最上川源流よねざわ紅花まつり2025
7月1日(火)～31日(木) 市内一円

【置賜文化ホールからのお知らせ】

山響ユアタウンコンサート 2025 米沢公演

8月23日(土) 14:30 開場 15:00 開演

全席指定 一般4,000円 学生(U-24)1,500円

※山形交響楽団鑑賞会員、伝国の杜ファンクラブ会員各割引あり
チケット発売中 問 / TEL.0238-26-2666